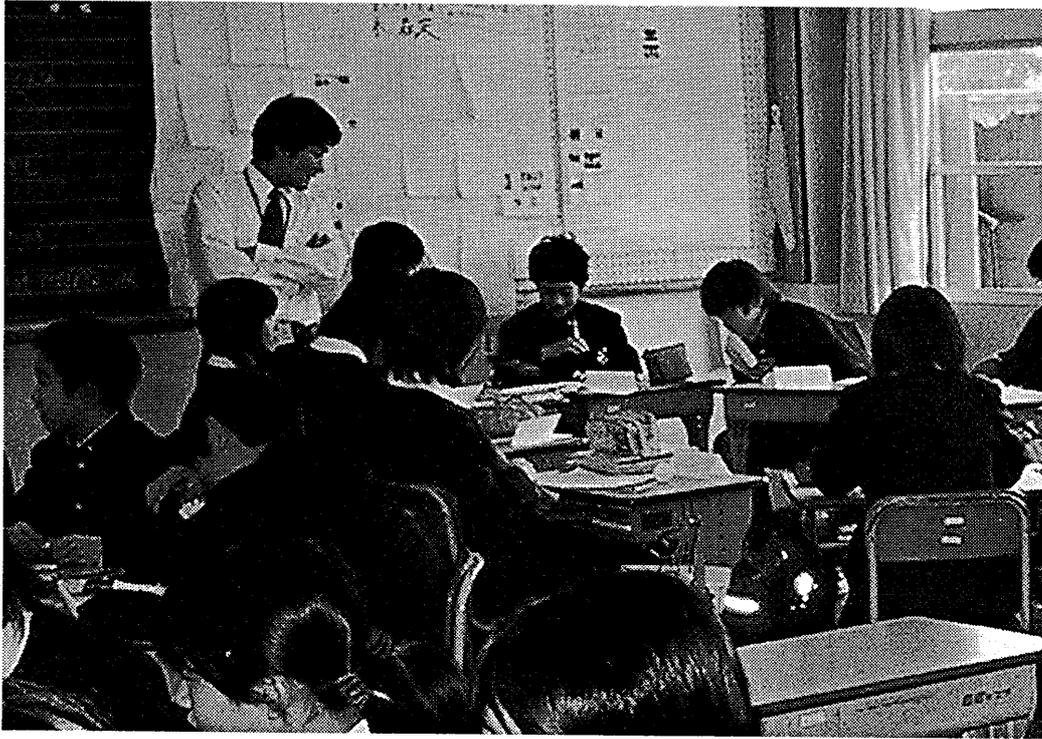


国際交流学習開発部会 実践報告



国際交流学習開発部会 研究の実際

【幼稚園での実践例】

幼稚園では、「絵本・音楽」「日本古来の文化と四季に親しめる行事」「外国の人々とのかかわり」「異年齢の友だち・高齢者とのかかわり」の四つの視点から国際交流学習のカリキュラムの編成を考えている。幼児期には特に身近な人や、文化にふれるという日常の保育全体が、国際的コミュニケーション能力をはぐくむ土台づくりとなっているととらえている。その中で、今年度幼小中とも広島大学の留学生との交流の場を積極的に設けるようにしてきた。具体的な年間指導計画の中では、「外国の人々とのかかわり」の欄を分けて設けている。ここでは、四つの視点のうちの「外国の人々とのかかわり」についての概要を以下にまとめる。

【実施期間】

平成16年5月～平成17年1月(7回)

【ねらいと保育者の援助】

- いろいろな国の人と一緒に遊ぶことを通してふれあいを楽しむ。
(コミュニケーション能力・多文化理解)
- ・ いろいろな人と出会う機会・場を無理のない自然なかかわりの中で設定することで、子どもたちが言葉に関係なく安心感をもち人とコミュニケーションを図ろうとする気持ちがもてるようにする。
- ・ 様々な表現を使える場を構成したり、子どもなりの表現をしっかりと認めたりする。
- ・ 子どもたちが相手にかかわろうとする姿をよく把握し、子どもの状況に応じて本人や相手の気持ちを代弁するなど子どもたちが安心して楽しめるように個に応じて援助する。

【実践例 3歳児】

5月10日(月)

主題「イーストキャロライナ州立大学(ECU)の学生が幼稚園に来て遊んだよ」

エピソード1

お帰りの時、10～20人の外国の学生さんたちの突然の訪問に驚いて、固まっている子どもたち。保育者と一緒に「こんにちは」と挨拶をする。チューリップの歌を歌ったが、普段より小さい声で歌う。拍手をもらい少し緊張が和らぎ子どもたちの表情に笑顔がみられる。

それから、「握手をしてもらいたい人？」と投げかけるが、誰も興味を示さない。再度「握手をしてもらいたい人？」と投げかけると、A女が手をあげ、「こんにちは」と言って保育者と一緒に緊張しながら挨拶をする。次第に他の子どもも「握手したい。」と出てくる。B男は大きな声で自分から「こんにちは」と言って手を差し出す。A女は帰り際「まだ握手したい」と言って握手を求めるなどとても楽しく親しんだ姿である。

また、学生にデジタルカメラを向けられて、緊張して構えていた子どもたちは、撮った画像を見せてもらうと、にこやかな表情を見せた。

しかし、C男とD男は恥ずかしがったり怖がったりして、保育者が促しても握手をしようとしなかった。



考察

始めは緊張している姿だったが、時間とともに、少しずつ慣れ親しんできたようである。握手をした

り笑顔を交わすなど、言葉ではない方法でコミュニケーションを図っているように感じた。

一方でC男やD男のように、握手をしない子どもたちの姿から、3歳の5月という時期的なことと、子どもたちが安心感がもてるように保育者がかかわっていくことの必要性を感じた。

9月16日(木)

主題「先生や友だちや留学生と一緒に遊ぼう」

(運動会ごっこ・おいかけっこなど自然な遊びの中でのかかわり)

留学生 4名

ランジャンさん(スリランカ) セサルさん(メキシコ)

ブレノさん(ブラジル) ナチョウさん(アルゼンチン)

エピソード2



E男は「一緒にいこう」と留学生さんと自分から手をつないで遊びに行き、ジャングルジムで留学生が頭を打つと「こうやって入るの、小さく小さく」と教えようとしたり「ここ座っていいよ」と言葉は通じないが、E男なりの言葉や動作で思いを伝えようとしながら、自らかかわろうとする姿が見られる。

エピソード3

オオカミさんの追いかけてっこが始まる。保育者も一緒に楽しむ。留学生は汗だくになって逃げしてくれる。子どもたちはとても楽しそうな表情をしている。一人の子どもがだっこをしてもらおうと「私もだっこ」と自ら思いを伝えて抱っこしてもらっている。大きな留学生に抱っこされても怖がるのではなく、親しんでいる様子である。



考察

子どもたちは伝えたいことがある時に、よりいろいろな人にかかわる意欲をもったり喜びを味わったり、相手に自分が受け入れられていると感じることができた時に、自分からかかわることができる。考える。

また、保育者自身が留学生と楽しそうに話をしたりふれ合ったりしている姿が子どもたちのモデルとなり、子どもたちは安心感をもって留学生とかかわることができるのではないかと考える。

12月9日(木)

主題「留学生と一緒に楽器遊びをしたり踊りを踊ったりしよう」

留学生 3名

セサルさん(メキシコ) スマンタさん(バングラディシュ) ナチョウさん(アルゼンチン)

エピソード4

ラテンやアラビアのような曲が流れると、はじめは遠慮気味な子どもたちだが、留学生に「一緒に踊ろう」と声をかけてもらい、A女が「踊りたあい」と立つと、次々立って、留学生のマネをしたり曲に合わせて自然に体をゆらしたりしてくる。しかし中にはE女のように「踊らない」という子どももいる。聞いてみると「恥ずかしい」とのこと。「先生と一緒に踊ってみよう」と保育者が声をかけ、一緒に踊ってみると「楽しかった」と喜んでいる。このように、留学生と一緒に踊るのは恥ずかしく距離をとっている姿が見られる。

また、弁当前に音楽をかけると、さっきは恥ずかしいと言っていたE女が、笑顔でコンガ(太鼓)に触れに来る。

お礼に子どもたちが楽器遊びで「ジングルベル」の歌をプレゼントをし、歌ったり掛け声をかけたりしながら楽しそうに楽器を鳴らす。留学生に「上手だった。ありがとう。とっても優しい音だったよ。嬉しかったです。」と言ってもらい、子どもたちも「ありがとう、また遊びたあい」と言って嬉しそうな様子が見られる。

考察

今までに何回か一緒に遊んでもらって楽しかった、嬉しかったという経験の積み重ねにより、今回の活動では留学生に少しずつ親しみの気持ちもてるようになってきている。こういう姿から、年齢に応じた楽器遊びを取り入れることが、しぐさや表情など言葉だけではない自分なりの表現が出せる場となるのではないかと感じた。

子どもたち一人ひとりの留学生とふれあう姿はちがうが、子どもたちがやってみたいと思える楽しそうな雰囲気をつくることが大切だと感じた。

【成果と課題】

以上のように、年間を通して留学生との交流を積み重ねてきた結果、次のようなことが考えられる。

いろいろな人と出会う機会・場を設定することで、子どもたちが言葉に関係なく人とコミュニケーションを図ろうとする姿がみられた。幼児期には自分なりの方法でいろいろな人とかかわろうとする気持ちもてることが大切であると考えている。そのために、様々な方法で表現できる場を構成し、子どもなりの表現をしっかりと認めたり一緒に喜びを味わったりしていくことが大切だと考える。

伝えたいことがあるとき、子どもたちは、よりいろいろな人にかかわる意欲やかかわりの中で喜びを味わう姿をみせていた。このことから、いろいろな人の思いや気持ちにふれる体験を多く積み重ね、いろいろな人や文化との出会いを大切にしながら、無理なく自然なかかわりの中で外国の人々を身近に感じられる気持ちを育むことが大切ではないかと考えている。また、子どもたち一人ひとりがかかわろうとする姿をよく把握し、子どもの状況に応じて本人や相手の気持ちを代弁したり子どもたちが安心してかかわりを楽しめるように個に応じて援助する。

そして、まず保育者自身が留学生と楽しそうに話をしたり一緒に遊んだりしながら、自然に留学生に

親しむ雰囲気や姿勢を大切にします。そうしたかわりに子どもたちがふれることで、子どもたちは安心感や意欲をもっていろいろな人に親しむことができるようになると考える。

【小学校での実践例】

- 学年：第6学年 39名
- 単元名：「附属小から Hafa Adai! (グアム日本人学校の子どもたちと交流しよう)」
- 実施期間：平成16年6月～11月
- 単元について

本単元は、グアム日本人学校の子どもたちとメールなどを交換することを通して、お互いの学校生活や普段の生活の様子を交流し、それぞれの国の文化を大切にしようという気持ちを持たせる学習である。日本人学校の子どもたちとの交流なので、日本語でコミュニケーションをとることが可能である。さらに、公用語の英語を、交流の中で用いることもできる。また、現地にはチャモロ人の文化が残っており、グアムのおかれてきた歴史やミクロネシア本来の文化を学ぶことを通して、世界の国々に目を向けさせることもできる。ここでは、交流という目的意識をもたせた国際交流学習を行うことで、子どもたちに意欲的に学習に取り組ませたいと考える。

○子どもの実態

子どもたちは、5年生から国際交流学習を始めている。ところが、年度当初、子どもたちの国際交流に対する意欲はあまり高いとは言えなかった。5月にECUの留学生が来校した際、交流をしたいかどうかを子どもたちに尋ねたところ、「交流したい」と答えた子どもは37名中7名で、「交流したくない」と答えた子どもは19名いた。その理由として、「自分たちはまだ英語が自由には話せないから」「言いたいことがお互いにきちんと伝わらないと、相手に失礼だから」といった意見が多くみられた。昨年度5年生の時に、中学校の教員とのT・Tや中学校3年生の生徒が作成した英会話ビデオを用いて、英語学習に取り組んではきたのだが、実際に外国の方との交流の場を設けることができていなかった。そこで、本年度は、学んだことを生かすことのできる場をできるだけ保障するために、まずは、ECUの学生に1日学級に滞在してもらおうようにした。すると、初めは尻込みをしていた子どもたちだったが、お迎え会では、片言の英語で自己紹介をしたり、一緒にゲームをしたりして、交流を楽しむことができた。また、授業内容を身振り手振りも取り入れながら一生懸命通訳したり、何とかコミュニケーションをとろうとしたりする姿が見られた。交流後の子どもたちの反応は、「楽しかった」「相手の言うことが分かった」「これまで学んだことが生かされた」など、肯定的なものがほとんどだった。

○学習にあたって

指導にあたっては、グアム日本人学校の教員からのメールをきっかけに、まずはメール交換を始める。その後、子どもたちとともに交流の計画を立て、グアムの地理や歴史、名物などについての調べ学習を行ったり、マルチメディアの時間に学習したことを生かして、学校生活の様子をプレゼンテーションで表現したりするようにする。その際、中学校の英語教員に英会話やライティングの指導をってもらうことで、子どもたちが安心して英語を使うことのできる環境を整える。また、教室にグアムについての資料やこれまでの学習の

足跡を掲示することによって、普段の生活の中で交流学习に親しませたい。

○単元の目標

- ・ グアムの文化について調べることを通して、それぞれの文化を大切にしようとする気持ちを持つことができるようにする。(多文化理解, 交流・共生)
- ・ 自分の思いを相手にしっかりと伝え, 交流を積極的に進めることができるようにする。(自己表現力)
- ・ 自分の気持ちや考えを英語で伝えたいという思いや, そのために英語を学ぼうとする意欲を持つことができるようにする。(コミュニケーション能力)

○学習計画 (全 13 時間扱い)

- | | | |
|-------|-----------------------|--------|
| 第 1 次 | グアム日本人学校と交流しよう | (2 時間) |
| 第 2 次 | グアムについて調べよう | (4 時間) |
| 第 3 次 | プレゼンテーションをつくろう | (6 時間) |
| | ・ 計画を立てよう | |
| | ・ 写真を選んで, 日本語で説明を付けよう | |
| | ・ 英語で表現しよう | |
| | ・ プレゼンテーションを仕上げよう | |
| 第 4 次 | ふり返りをしよう | (1 時間) |

○授業の実際

<第 1 次>

昨年度まで本校にいた教官がグアム日本人学校に赴任したのをきっかけに, その教官から 6 年生あてにメールを送ってもらい, 近況報告などのやりとりをすることから始めた。そして, 単元全体の大まかな計画を立てた。

<第 2 次>

その後, グアムの自然や観光, チャモロ文化についてなど, グループごとに調べ学習を行う中で, 日本人学校の児童に現地レポーターになってもらい, グアムの情報を教えてもらうようにした。

広島大学附属三原小学校 6 年生の皆さんへ

こちらは, グアム日本人学校の 6 年生, H です。これからグアムと三原附属の皆さんとの間をつなぐグアム日本人学校のリポーターとして活躍します。1 学期には, オーストラリアに修学旅行に行きました。7 月 23 日に 1 学期の終業式を終えて, これから夏休みが楽しみです。これからどうぞよろしくお願ひします。

さて, この前のメールの皆さんの質問の答えを考えてみましたので, きょうはその答えを送ります。

①こちらの遠足は, ラムラム山に縦割り班で登る予定でしたが, 雨で中止になりました。そこで, プレイルームでゲーム大会をしました。

②全校の人数が少ないので, 小 1 ~ 中 2 までで「わくわく班」という班を作って活動しています。

③マカデミアナッツが有名です。

④恋人岬の伝説があります。昔恋人同士が親の反対にあい, お互いの髪の毛を結んでがけから飛び降りたそうです。その場所が, グアムの名所「恋人岬」です。

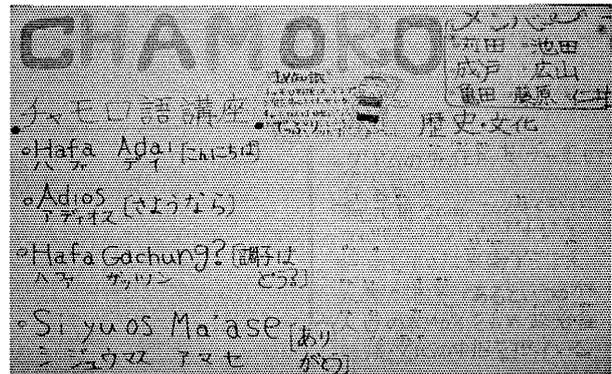
- ⑤人気の本はちょっとわかりませんが、わたしたちは、「POP STAR」と「BOP」という TV STARの本が大好きです。
- ⑥ヤシガニ。昆虫とはちょっと違いますね。
- ⑦グアム リーフ フィッシュという、黄色とグレーのきれいな魚がいます。
- ⑧運動会、学習発表会などです。学習発表会は、ホテルで上演します。
- ⑨小学生は3時間、中学生は6時間です。
- ⑩夏休み、冬休み、春休み。季節はいつも夏なので、ちょっと変ですね。
- では、またメールやビデオで交流しましょう。

グアム日本人学校 6年リポーター H

資料1 グアム日本人学校の子どもからのメール

グアムの観光地について調べよう

資料2 チェモロ文化についてのまとめ

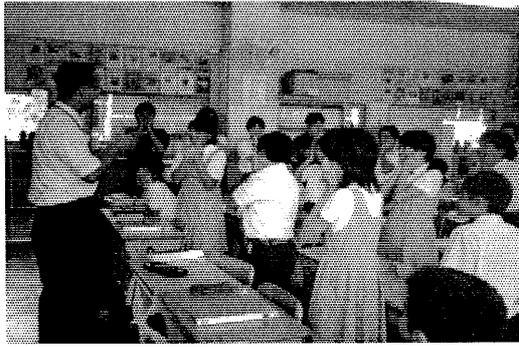


<第3次>

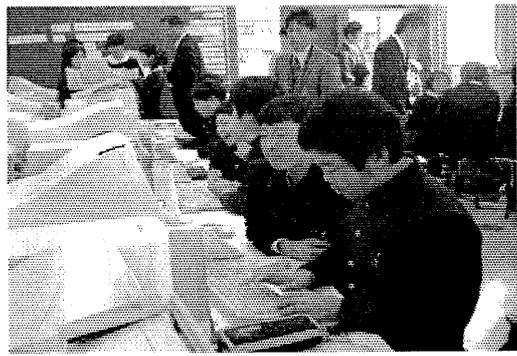
グアム日本人学校の子どもたちにこちらの学校生活の様子を教えてあげようということで、10月下旬に行った修学旅行の様子を紹介するプレゼンテーションづくりに取り組んだ。その際、中学校の英語教員とのT・Tによる英語学習に取り組み、修学旅行のプレゼンテーションを英語で表現するために必要ないくつかの基本的な構文を学習した。

We went to ~ . (私達は～に行きました。)
 It was ~ . (それは～でした。)
 We ~ . (私達は～をしました。)
 We had a good time. (感想) など





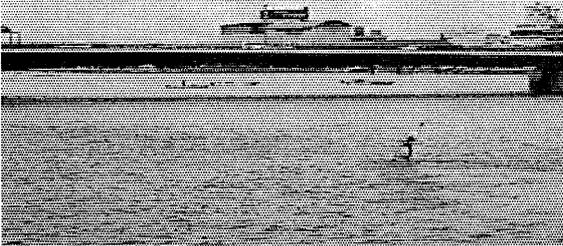
中学校教員との英語学習



コンピュータを用いてのプレゼン作り

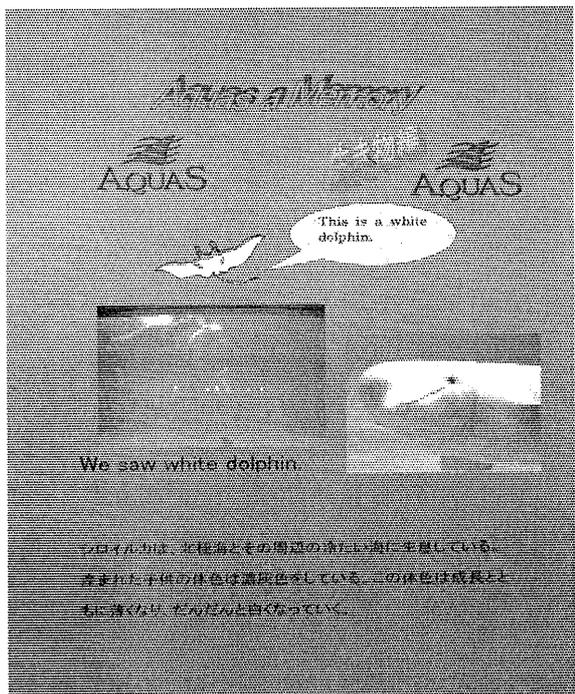
また、マルチメディアの時間に学習したコンピュータを活用する力を生かすようにした。

Our Memories of Walking in Matsue
 僕達の思い出 松江戸由散策



僕達は松江に自由散策に行きました。
 We went to Matsue to walk around
 それはきれいかったです。
 It was beautiful.
 僕達は観光をしました。
 We went sightseeing.
 いろんなものを食べました。
 We ate many foods.
 とても楽しかったです。
 It was very pleasant

資料3 松江自由散策のプレゼン



This is a white dolphin.

We saw white dolphin.

このイルカは、北極海とその周辺の海に生息している。生まれた子供の体色は濃灰色でいる。この体色は成長とともに薄くなり、だんだん白くなっていく。

資料4 アクアス見学のプレゼン

<第4次>

本単元の学習についてのふり返しを行った。

○成果と課題

学習後のアンケート調査では、「学習に意欲的に取り組むことができた」と答えた子どもが35名中33名いた。その理由として「グアムの人たちとメールで話げた」「一度も会ったことがない人と交流できたことがうれしい」などをあげており、お互いがわかり合うことに喜びを感じていることが伺える。「自分から進んで英語を使うことができた」という32名の子どもは、「話すだけでなく文字が書けた」「友達と協力してプレゼンを作ることができた」などをあげていたが、2名は「自信がない」「難しい」ということをあげたので、今後も改善の余地があろう。また、「グアムの文化に親しむことができた」と答えた34名の子どもは、「日本とは違う国のことがよくわかった」「チャモロ語がおもしろかった」など、少しでも異文化にふれることを楽しむことができたようである。

これまでの実践を通して、多文化理解や英語学習で学んだことを生かす場を保障し、目的をもった英語学習に取り組ませることで、子どもたちの意欲的な活動を引き出すことが

できたように思う。その一方で、国際交流学習とマルチメディア学習との融合を考えたカリキュラムを整えていく必要がある。

【中学校の実践例】

(1) 中学校1年生の実践

日本の民話を紙芝居にして、様々な国の生徒と意見交換をする学習を通して、多文化を知り、理解しようとする態度を育てるとともに、絵や文字を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や資質を育てる実践を報告する。

① 単元について

学 年 : 中学校第1学年B組41名

実施時期 : 平成16年11月11日木曜日 第3校時

単元名 : 「民話を紙芝居にして交換しよう」

研究の視点

〔教材観〕

単元「民話を紙芝居にして交換しよう」の学習を通して生徒に身につけさせたいことは、多文化に関心を持ち、積極的にかかわろうとする態度とコミュニケーション能力の向上である。21世紀に生きる子どもたちにとっては、言語や文化が異なる国々に住む人々とコミュニケーションをとりながら、お互いの交流を深め、共生しようとする態度が必要となる。日本昔話を紙芝居として扱うことは、生徒にとって身近で親しみやすい題材であると考えられる。また、交流相手と紙芝居を交換して、交流学习を行うことを通して、コミュニケーション能力は向上し、物語の背景にある言語や文化への関心が深まり、積極的に多文化と関わろうとする態度が育つ題材である。

〔生徒観〕

本学級の生徒は、明るく活動的である。これまで学習してきた単元には、グループ活動を中心としたコミュニケーション活動が多い。前単元では、学校生活に関するアンケート作成と自己紹介文の作成を行い、複数の交流相手校（アメリカ、オーストラリア、ザンビア、韓国）に作成したアンケートを使った調査を行うなど、様々なことをグループで取り組んできた。依頼したアンケートの回答や、作成した紙芝居を読んだ交流相手校や他の生徒からの英文の返事を喜んで読む姿が見られ、コミュニケーション活動に対して意欲的な一面も見られる。しかし一方で、思うように英語が理解できず、もどかしく感じている生徒も少なくない。また、物事を考察したり、他者の意見を共有したりしようとする姿勢に乏しく、相手の存在を意識した発表をしようとする意識が高まっていないという課題がある。

〔指導観〕

指導にあたっては、紙芝居を読んだ交流相手からの感想や意見を活かすことや、分かりやすく相手に伝えるためにはどう修正を加えていくべきかを考えさせる行程で、他者の意見を受け入れ、理解することの大切さを感じさせる点に気をつけて行う。

〔単元の目標〕

- 他国の民話を英語で読み、その内容を理解することができるようにする。（多文化理解）
- 紙芝居、絵本、民話の表現構造や4コマを基本とした構図を理解させる。（多文化理解）

- グループで紙芝居を作り，自国の言葉で表現させる。(自国の言葉での自己表現力)
- 交流相手校と TV 会議システムやインターネットを使って紙芝居を交換し，コミュニケーションを進んでとろうとする意欲を持たせる。(コミュニケーション能力)

〔学習計画〕(全 32 時間)

- 第 1 次 インターネット「デジタル絵本サイト」で世界の民話を読む・・・6 時間
- 第 2 次 紙芝居，絵本，民話の表現構造を学ぶ・・・4 時間
- 第 3 次 民話を紙芝居にして，日本の話を伝えよう・・・12 時間
- 第 4 次 交流相手校から学ぶ・・・4 時間
- 第 5 次 交流相手校と一緒に民話を鑑賞する・・・6 時間

②本時の授業について

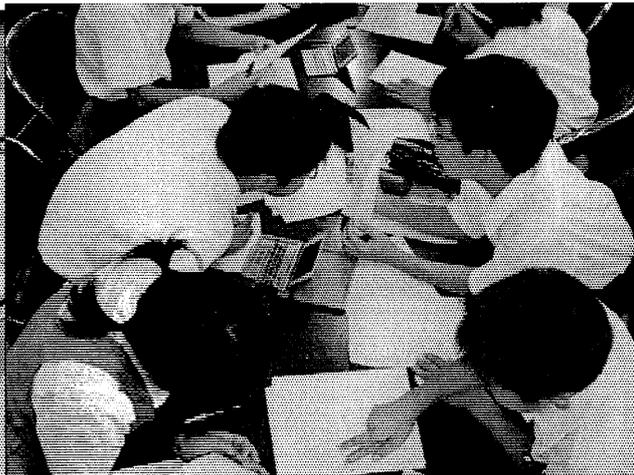
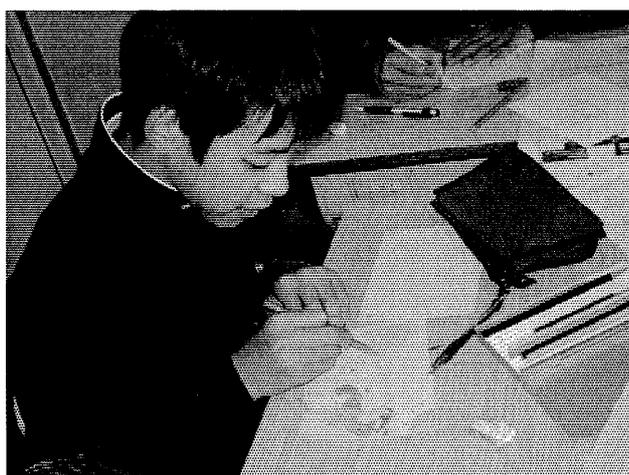
〔本時の目標〕

- 班ごとの紙芝居を考察することを通して，表現法やプレゼンテーションの仕方を学ぶ。(自国の言葉での自己表現力)
- 交流相手校の感想を読んで，多文化へ関心を持つとともに，民話を通して，様々な考え方に触れる。(多文化理解)

〔本時の概要〕

〈はじめに〉

本単元を学習するにあたって「デジタル絵本サイト」を紹介し，世界の民話に触れるとともに，日本民話への興味付けを行い，クラスを 10 つのグループに分け，1 班ごとに民話を選び，絵と英文を作った。できあがった作品をインターネット上に『The Picture Story Show』(URL→<http://www2.jearn.jp/fs/1151/index.html>)として立ち上げ，生徒が作成した物語を読んだ感想を求めた。11 月 11 日までに返ってきた感想をもとに，今度紙芝居のどの点を改善し，修正すべきかを考えさせる学習を計画した。



資料 1 紙芝居の絵を作成する様子

資料 2 班で英訳している様子

〈第 1 次〉

前時までに班ごとで作成した紙芝居を見直し，全体の前で発表できるように短時間で打ち合わせをした後に，2～3 つの班に紙芝居を発表させた。発表に関しては，あらかじめ評価の観点を提示して行わせた。発表の方法としては，教室のプロジェクターに絵を映し，画面にあわせて英語か日本語で紙芝居の文章を発表した。発表を聞く側の生徒に対しては，

評価の観点に従って、評価カードの記入をさせた。

〈第2次〉

評価カードをもとに、班内での意見交流をさせた。指導者は机間指導の際に意見交流を促したり、映像に関するアドバイスや気づきを伝えたりした。なお、発表や意見は紙芝居を修正するにあって必要だと思える内容を的確に伝えることをねらいとした。

資料3 生徒の感想や意見（一部抜粋）

- | | |
|-----------------|-------------------|
| ・絵がカラフルで分かりやすい。 | ・絵と文があっていない。 |
| ・不要なカットがある。 | ・絵の枚数が多すぎ、分かりづらい。 |
| ・話の内容がおもしろい。 | ・話がまとまっていて分かりやすい。 |

〈第3次〉

生徒の作品を登録した『The Picture Story Show』サイトを紹介し、作品を読んだ生徒から届いた感想文を読ませた。感想文のほとんどは英語で返って来ているが、日本語を学習中の学校からは英語と日本語両方の表記があったので、キーワードとなる単語を指導者側が提示しながら、感想文を読ませ、発表させた。

資料4 海外からの感想を読んだ生徒の感想（一部抜粋）

- | | |
|-------------------------------|-------------|
| ・紙芝居の内容が正しく伝わっていない。 | ・スペルミスが多い。 |
| ・おもしろいと感じている。 | ・楽しいと感じている。 |
| ・色づかいがはっきりしている方が好まれる。 | |
| ・日本の文化や歴史など幅広く説明することを要求されている。 | |

資料5 N.YのEdさんからの感想1

The picture shows are great, very expressive and colorful. I have known some of these stories before, but they came alive when I saw your students' pictures. I hope your students will tell us about drawing these pictures? What did you learn and what are you trying to share with us outside Japan? What do these stories tell us about Japanese history and culture? I would love to hear from your students. From Ed New York City
--

資料6 オーストラリア Chloeさんからの感想2

はじめまして。わたしはChloeさんです。十四さいです。 ちゅうがくになんせいです。おはなちをよみました。 ーばんすきなおはなしはfire raccoon dogとthe rolling rice ball. Your stories were great! I loved them! You are all really good at English. My friends and I found them really fun and interesting to read. We enjoyed reading them thoroughly. You are all really talented drawers, your pictures were very
--

(2) 中学校2年生の実践

(2) 中学校2年生の実践例

学校紹介したい内容を簡単な英語とパワーポイントで表現することを通して、外国の人たちにわかりやすく説明したり、応答したりすることで積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や資質を育てる実践を報告する。

① 単元について

○学 年：広島大学附属三原中学校2年生 83名

○実施時期：平成16年9月～11月

○単元名：「学校紹介プロジェクト」

○研究の視点

〔教材観〕

単元「学校紹介プロジェクト」の学習を通して、生徒に身につけさせたいことは、外国の人たちと積極的にかかわろうとする態度と英語を使った実践的なコミュニケーション能力の向上である。学校紹介を英語で異なる国の人に紹介することは、自分たちの文化を知り、伝えるとともに、相手の知りたいことを知り、教えようとする本当の意味でのコミュニケーション活動を行うことができる。学校生活を英語で表すことで異なる国々から来ている人たちにコミュニケーションをとることは、生徒にとって身近で表現しやすい題材である。また交流相手からの質問や相手の国の学校生活を教えてもらうことは異文化に関心を持ち、理解しようとする態度を育てることができる題材である。

〔生徒観〕

2年生の生徒は、前単元「放課後何してる？」で学校生活に関するアンケート作成と交流相手からの回答を分析、考察し、学級内で意見交流することで「相手の学校生活を知る」ということから異文化を理解しようとする積極的に活動する姿が見られた。しかし、アンケートを通して、実際の交流を行っているわけではなく、「交流相手を身近に感じながら」という思いには至っていない。英語能力においては、発達段階からしても発展途上にあり、日本語を英語表現に置き換えることについては、インターネットや電子辞書に頼りながら苦慮している姿も多く見られる。自分の思いをよりよく表現することができず、TT教員に頼り切ってしまう態度が見られる。

〔指導観〕

指導にあたっては、学校生活について振り返らせたり、見つめさせたりすることで、「何を伝えることが相手にとって興味関心を抱かせることになるのか」という多文化交流という視点にたって交流素材を見つけさせるようにする。さらにその素材は、相手にわかりやすく伝えることができるように配慮させる。

その手だてとしては、次のようなことに配慮したい。

- 自分たちがあたり前のように生活していることが外国の人たちにとっては必ずしもそうではないであろう」という視点でわかりやすいプレゼンを考えさせる。
- 電子辞書を使ったり変換ソフトを使ったりして、なるべく自分たちで英語表現できるように努力し、わからないことや疑問に思うことは、実際の交流場面で確かめるようにさせる。

- 伝えるべきことがらに合った写真を自分たちの力で入手させ、自分たちの思いを伝えることができやすいように画像を編集できるようにさせる。

さらには、実際の交流場面で自分たちの思いを積極的に伝えたり、相手の思いをくみ取ろうとしたりする意欲や態度を身につけることができるように、TT教員が連携を図りながらその場をサポートできるようにする。

○単元の目標：

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">① 紹介したい内容を日本語や英語でまとめることができる(自国の言葉での自己表現力)② 間違いをおそれずに、英語で質問や応答ができる(コミュニケーション能力)③ 積極的にコミュニケーションをとろうとしている(コミュニケーション能力)④ 簡単な英文と絵を使って、日本の文化や習慣を紹介できる(積極的な交流・共生を求めていこうとする力) |
|--|

○指導計画(全27時間扱い)

- 第1次 パワーポイントを作り、音声・英文を付けて完成する(8時間)
第2次 デジカメで写真を貼り付けナレーションを完成させる(4時間)
第3次 英文音読練習とVTR撮(6時間)
第4次 留学生を招待して発表会(4時間)
第5次 広島大学国際交流室との会議(1時間)

②授業の実際

自分たちの学校について英語でわかりやすく伝えることができるように、様々なアプローチを加えていった。具体的には自分たちの声を録音し、パワーポイントに貼り付けさせたり、自分たちの発表をビデオ撮影し、自己評価、相互評価を取り入れ振り返らせたりした。マイクを使った録音では何回も繰り返し発音し、自分の声を再生し修正を加える生徒も多くいた。ビデオ撮影では相手に簡単な英文と絵を使って、日本の文化や習慣を紹介しようとする場面が見られた。

そのような活動を通して自分たちの学校生活を生の声で伝える活動に対して生徒達の意欲が向上してきたと思われる。具体的には英文を書くことが得意な生徒、構成ができる生徒、デジカメなどメディア操作が得意な生徒など、多様な能力を持った子どもたちの能力が英文を含めたマルチメディア制作という場で発揮された。一方では英文を読む練習を十分とることができず、相手に自分が伝えたいことを正確につたえることができるだろうかという不安な生徒もいた。分かりやすく、相手に伝えるためにはどうすればよいか考えさせる過程でわかりやすい英文に修正し、正しい発音での相手に伝えようとする意欲が見られた。

資料1 生徒感想文

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 留学生の人たちの前で紹介しているとうなずいて聞いてくれたので、理解してくれていると思って安心した。分かりやすく話すことが大切だと感じた。・ こんな機会はないのでうれしい。今日は外国から見た附属中学校はこんなに素晴らしいのだと感じた。 |
|---|

- ・日本人と外国の人では考え方が違い、非常に興味深い意見を聞くことができた。

資料2 生徒説明文「クラブ紹介」の例

- ・ There are track and field club, table tennis club, basketball club, volleyball club, soccer club, wind instrument music club, fine arts club and computer club, every day We practice after school.
- ・ They are practicing for a record meeting. Now, there are 15 members in track and field club.
- ・ They are playing basketball game. Now, there are about 15 boys in basketball club.

(注) ※ これらの文章は、生徒自らが作成したパワーポイントの画像と連動している。

③ 成果と課題

単元目標である「コミュニケーション能力」「自己表現力」に関しては生徒の感想を分析すると、意欲の向上が見られる。(資料1を参照) 人に実際に話して伝える経験が少ない生徒にとって留学生やテレビ会議を想定した授業展開は実践に役立つと思われる。更に今後、テレビ会議を利用して交流相手校や日本の学校について知らない人に伝えるというはっきりした目標をもつことで意欲をさらに高めていける。このように紹介できる内容を持たせ、多くの場を設定することで実践的なコミュニケーション能力を育成していきたい。

(3) 中学校3年生の実践

複数の国々との直接的な体験学習や、メール交換および手紙や作品の交換を通して、そこに住む人々の考えや生き方から異文化への関心を高め、国際人としての基礎を培う実践を報告する。

① 単元について

学 年 : 中学校第3学年

実施時期 : 平成16年9月～12月18日

単元名 : 「Katherine High Schoolの生徒に広島市内をガイドしよう」

〔単元の背景〕

本校は4年前にアメリカ合衆国ノースカロライナ州のマーチンミドルスクールと姉妹校提携を結んでおり、3年間ずっとペンパル交流を行っている。また、昨年10月からはザンビアの中学校ともペンパル交流を実施している。今年の3月から新しい交流相手校の開拓のため、韓国、オーストラリアに依頼したところ、オーストラリアの複数の学校から交流依頼の返事もらった。そのうちの1校であるキャサリン中高等学校との交流学習を今回は報告する。当校では今年の12月に日本に修学旅行へ訪れることが決定しており、広島もその訪問予定地となっていたため、附属三原中学校の生徒が広島市内をガイドする話を企画し、約9ヶ月の連携のち、12月18日(土)に広島市内で旅行ガイドのプロジェクトを実施した。この企画は、中国新聞にも掲載されて紹介された。

〔単元について〕

キャサリン中高等学校の生徒に広島市内をガイドするために必要なデータを収集し、分

かりやすく広島を案内することを通して、自らのコミュニケーション能力の向上をめざすことがこの学習の目標である。学習を進めるにあたって、クラスを4つの小グループに分けて、役割を分担したプロジェクト方式で行った。役割については次の通りである。

プラン係・・・訪問予定地，移動手段，施設使用金額などの調査を行い，モデルプランを作成する。

交流係・・・事前のメール連絡を行う（モデルプランの送付，相手の希望を調査，相手からの質問に答える）

実行係・・・プラン係が企画したプランに沿って，当日キャサリン中高等学校の生徒に旅行ガイドをする。

調整係・・・4つの進行状況を把握し，調整する。

〔単元の目標〕

(1)日本に初めて訪れるオーストラリアの中学生に広島市内のガイドをすることを通して，自分たちの県のよさを再認識する。

(2)聞き取れなかったり，分からないことがあっても，間違いを恐れずに積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を養う。

(3)実地でのコミュニケーション活動を通して，自らの英語力を高めるとともに，オーストラリアの文化や考え方を知る。

〔学習計画〕9月～12月（全15時間扱い）

②学習の概要

〈第1次〉

資料1を見て，キャサリン中高等学校が予定している旅行概要を見て，旅行の趣旨について意見交流をした後，全体のグループ分けを行った。

資料1 キャサリン中高等学校から添付された旅行日程

FANCY A BIT OF ASIAN CULTURE IN YOUR LIFE???

HAVE YOU THOUGHT ABOUT A CULTURAL TRIP TO JAPAN??

DEPARTING DARWIN 11 DECEMBER RETURNING DARWIN 21 DECEMBER

Brief Itinerary

Depart Darwin via Cairns to Narita, Airport Tokyo Japan.

Day 1/2 Arrive Narita, Airport Tokyo Japan. Transfer to hotel. Half day tour: Imperial Palace Plaza (Ikebana Flower Demonstration), Asakusa Kannon Temple, Ginza Shopping District (OVERNIGHT TOKYO YOUTH HOSTEL)

Day 3 Pick up Train tickets (Shinnkasen - Bullet Train) etc. Japanese Tea Ceremony Tokyo. Bullet train to Mt Fuji (OVERNIGHT FUJI GUEST HOUSE HAKONE).

Day 4 Mt Fuji to Hakone (cruise on Lake Ashi and aerial cableway up and down Mt. Komagatake then onto Kyoto over night. (OVERNIGHT STATION SEIKI RYOKAN)

Day 5 Kyoto including Golden Pavilion, Jijo Castle, Kyoto Imperial Palace (OVERNIGHT STATION SEIKI RYOKAN)

Day 6 Kyoto Nara Kyoto. Visit Nara including Todaji Temple, Kasuga Shrine and Deer Park (OVERNIGHT STATION SEIKI RYOKAN)

Day 7 Kyoto/Miyajima/Hiroshima including Itukashima Shrine (red Torii gate), Peace Memorial

	Park (A Bomb devastation relics) (OVERNIGHT HIROSHIMA NEW HIRODEN HOTEL)
Day 8/9	Hiroshima Miyajima (OVERNIGHT MIYAJIMA HIGASHIYAMA YOUTH HOSTEL)
Day 10	Hiroshima to Tokyo 1 night overnight stay or return to Australia via Cairns (depending on flights OVERNIGHT TOKYO YOUTH HOSTEL)
Day 11	Home to Australia

〈第2次〉

グループごとに活動を行い、毎時間授業の中で調整係を中心として、報告会を行い授業の進行状況を確認した。作成したモデルプランが機能するかどうかを確認するために、広島大学の留学生との事前学習を企画した。

〈第3次〉

資料2のように作成したモデルプランを使って、広島市内で事前学習を行った。参加した広島大学の留学生は来日して間もないこともあり、日本語での会話はほとんどできず、従って必然的にコミュニケーション活動は、英語とジェスチャーの2つで実施した。学習の目標の一つであるコミュニケーション能力の向上を実現するために、留学生1人に対して、3人一組のグループを4つ作り、小グループで行動することで、一人ひとりが積極的にコミュニケーションをとる必要性を高めた。留学生たちは広島市内のことをほとんど知らなかったため、旅行ガイドをするという点においては、中学生がリードせざるを得ない状況を作り出すことができた。参加した生徒は、後日他のグループに活動内容を報告し、今後必要な学習、準備物、プランの修正などを確認した。

資料2 旅行ガイド事前学習の実施要項

旅行ガイド事前学習（下見）実施要項

次の内容で、事前学習を実施したいと思います。これは12月に来校するオーストラリアの高校生を観光ガイドするための事前学習です。

1. 学習のねらい

- ①来日して間もない外国人に広島市内のガイドをすることを通して、自分たちの県のよさを再認識する。
- ②聞き取れなかったり、分からないことがあっても、間違いを恐れずに積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を養う。
- ③12月に行う観光ガイドの事前学習として実施し、コミュニケーション活動を通して、自らの英語力を高める。

2. 日時：平成16年11月28日（日）9:30 広島駅西改札口にて待ち合わせ

3. 集合：三原駅 7:40

4. 行程：三原駅 7:50→（JR）→広島駅 9:05

広島駅→市電→平和記念公園→（市電）→広島城→
（徒歩）→本通り駅→（アストラムライン）→不動院前→不動院→
（アストラムライン）→本通り駅→（市電）→広島駅→
広島駅 15:23→（JR）→三原駅 16:27（解散）

5. 参加者：Mr. Maquiren Dominique（マキ-ラ・ドミニクさん）フィリピン出身
 Mr. Arman Tirtajaya（ア-マン・ティルタジャアさん）インドネシア出身
 ※西側の改札口で留学生と合流する。
6. 引 率：松尾砂織，木本一成
7. 経 費：昼食代は個人もちですが，交通費，入館料は学校が負担します。
8. 一人あたりの経費：※表を参照

〈第4次〉

旅行ガイド実施日の前日，12月17日金曜日（13:30～16:30）にキャサリン中高等学校の生徒が本校を訪れ，交流学习を行った。生徒たちが主体となって，学習内容を考えた結果，次のことを実施した。

- (1) 歓迎会
- (2) 打ち合わせ（翌日の活動グループの発表および打ち合わせ）
- (3) 学校紹介（校内を案内しながら，校内や授業を見学する）
- (4) 行事紹介1（自分たちが作成した修学旅行のビデオを視聴する）
- (5) 行事紹介2（キャサリン中高等学校が作成した学校紹介ビデオを視聴する）
- (6) 文化紹介（書道を教える）

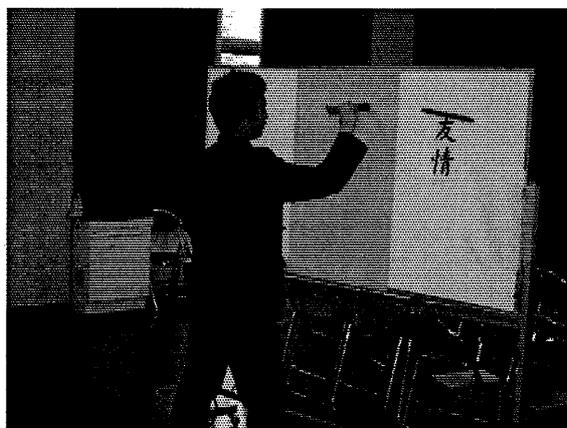


写真1 書道の書き順を示す様子



写真2 書き方を教える様子



写真3 プレゼント交換をする

〈第5次〉

12月18日に広島市内での観光ガイドを実施した。前回のモデルプランのコースを一部修正して行った。主な修正部分は、昼食後は、キャサリン中高等学校の生徒の希望により着付けやお茶などの文化体験学習を取り入れた。



写真4 お茶の体験をする様子



写真5 着付け，クラフト体験の様子

キャサリン中高等学校の生徒は、千羽鶴、平和の子の像、原子爆弾など事前に平和学習を行っていた。平和の子の像では、両校の名前を入れた千羽鶴に平和への願いを込めて供えた。平和記念資料館では熱心に説明を見たり、生徒の説明を聞く姿があり、両校の生徒にとって、よい学習となった。



写真6 平和公園での様子



写真7 平和記念資料館での様子

資料3 キャサリン中高等学校の旅行日程

日程	内容	活動場所および宿泊地	担当者
12月17日(金)	観光および学校訪問(交流学习)	午前中 広島城見学(未定) 11:00 広島駅 松尾とプログラムの打ち合わせ 12:23 広島駅 13:27 三原:附属三原中学校へ移動 13:45~15:25 中3「Gの時間」合流 16:22 三原駅 17:28 広島:旅館へ移動	Ms. Leanne 松尾

		原駅 17:28 広島：旅館へ移動	
12月18日(土)	観光	9:10 平和公園前で附属三原中学校生徒と合流 平和公園・記念資料館拝観, 昼食, 文化体験学習 (着付け, お茶, ペーパークラフト), 買い物	Ms. Leanne 松尾, 木本
12月19日(日)	7:30 宮島観光発 15:00 東京へ	宮島散策, 厳島神社, 鳥居 午後から東京へ移動	Ms. Leanne 松尾

〈第6次〉

オーストラリアの新学期1月下旬に合わせて、今後はテレビ会議システムを使った、直接交流を計画している。12月17日に学校訪問をした際に、テレビ会議システムの簡単な事前テストも実施済みである。メール交流はこれまで通り継続するとともに、卒業までに2～3回のテレビ会議システムを使った交流学习の実施を計画している。

③成果と課題

学習の中盤11月中旬に中学校3年生80名(うち回答者75名)を対象に交流学习に対するアンケート調査を行った。表1より67%の生徒が直接的な交流学习においては、話すことを楽しいと感じている。一方で表2からは、話すことに関して不安を感じている生徒が71%を占めていることが分かる。理由としては多かったのは、間違えたら恥ずかしいが圧倒的で、交流すること自体には抵抗を感じていない生徒が多いことが分かった。

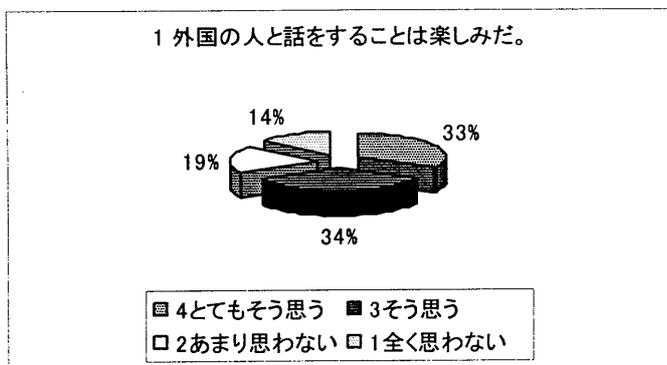


表1 話す意欲

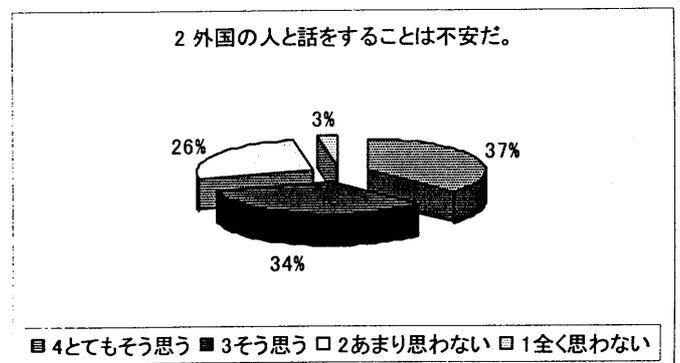


表2 コミュニケーションへの不安

今後の課題は、表1, 2の実態が今後どのように変容するかを明らかにするとともに、

交流学習を計画的に実施し、さらに継続させることである。今回実施した旅行ガイドの現地での活動参加者は、希望者に絞ったために、若干名だったが、今後は一人でも多くの生徒に生きたコミュニケーション活動を経験させる場の提供に努める必要がある。そのためには、交流相手校との交流を継続させ、お互いが積極的に関わりあえる関係づくりを築くことが先決である。